

福島第一原子力発電所 測定・確認用設備A群から採取したALPS処理水の分析結果と2025年度第1回ALPS処理水海洋放出の開始予定日

< 参 考 資 料 >
2 0 2 5 年 4 月 8 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- ALPS処理水について、2025年度第1回放出に向けたG4南エリアB群、K3エリアA群およびB群から測定・確認用設備A群への移送を2月10日に完了しました。また、2月13日から測定・確認用設備A群の循環・攪拌運転を実施し、2月21日に試料採取を行い、採取した試料の分析を行っています。

<3月27日までにお知らせ済み>

- 採取した試料の分析結果から、放出基準を満足していることを確認しました。
 - ① 測定・評価対象核種(30核種):告示濃度比総和「0.083」(1未満を確認)
 - ② トリチウム:37万ベクレル/ℓ(100万ベクレル/ℓ未満を確認)
 - ③ 自主的に有意に存在していないことを確認している核種(38核種):全ての核種で有意な存在なし
 - ④ 一般水質(自主的に水質に異常のないことを確認)(44項目):基準値を満足
- 外部機関(化研)の測定結果※も当社同様、放出基準を満足していることを確認しました。これらを踏まえ、4月10日からALPS処理水の海洋放出を開始する予定です(予定放出水量:約7,800m³、想定トリチウム総量:約2.9兆ベクレル)。
- ALPS処理水を海水で希釈した水のトリチウム濃度は約500ベクレル/ℓと想定しており、国の規制基準6万ベクレル/ℓ、WHO飲料水基準1万ベクレル/ℓ、政府方針で定められた1,500ベクレル/ℓに比べて十分に低い値となります。
- また、ALPS処理水は、原則として、トリチウム濃度の低いものから順次放出しております。今後、放出する処理水のトリチウム濃度に応じて海水濃度も影響を受け、これまでより高い分析値が検出されることも想定されますが、放出停止判断レベル(700ベクレル/ℓ)および調査レベル(350ベクレル/ℓ)を下回るものと考えています。
- 引き続き、安全な海洋放出を安定的に実施できるよう緊張感を持って取り組んでまいります。

※ ①測定・評価対象核種(30核種) ②トリチウム ③自主的に有意に存在していないことを確認している核種(38核種)を測定

[参考] 2025年度ALPS処理水放出計画 (1/2)



- 2025年3月時点における2025年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数7回、1回当たりの放出水量約7,800m³、年間放出水量約54,600m³、年間放出トリチウム量約15兆ベクレルを計画。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	放出開始時期
25-1-12	G4南エリアB群 (測定・確認用設備 A群に移送) K3エリアA/B群 ※5 (測定・確認用設備 A群に移送)	※4 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45~0.55※6 トリチウム濃度 : 22万~37万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 2.8兆ベクレル : 約8,080m ³ : 約910m ³	4月
25-2-13	K3エリアA/B群 ※5 (測定・確認用設備 C群に移送) J1エリアE群 (測定・確認用設備 C群に移送)	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45~0.62※6 トリチウム濃度 : 22万~38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 1.9兆ベクレル : 約7,000m ³ : 約800m ³	6~7月
25-3-14	J1エリアE群 (測定・確認用設備 A群に移送) G5エリアE群 (測定・確認用設備 A群に移送)	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.62※6 トリチウム濃度 : 20万~38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 2.9兆ベクレル : 約7,300m ³ : 約500m ³	7~8月
25-4-15	G5エリアE/C/B群 (測定・確認用設備 B群に移送)	※4 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.62※6 トリチウム濃度 : 20万~22万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 1.6兆ベクレル : 約9,000m ³	9月

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量(実績値)の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 下線部は実績値を示す。

※4 受入先の測定・確認用タンクA・B群はタンク点検後で残水が無い状態のため、移送量としては合計約9,000m³となる(放出水量は約7,800m³)。

※5 K3エリアA/B群は、2023年度および2024年度に移送・放出により空になったところへ再度ALPS処理水の受け入れを実施。

※6 ALPS処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種(Cs-134, Cs-137, Sr-90, I-129, Co-60, Sb-125, Ru-106)の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値(0.11)およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※7 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

[参考] 2025年度ALPS処理水放出計画 (2/2)



管理番号※1	移送元タンク※2	前スライドより 移送量	放出開始時期
25-5-16	G5エリアB/A群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約7,800m ³ 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.59※3 トリウム濃度 : 22万~26万ベクレル/リットル ※4 トリウム総量 : 1.9兆ベクレル	10~11月
25-6-17	G5エリアA/D群 (測定・確認用設備 A群に移送) G4北エリアA/B群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約4,000m ³ : 約3,800m ³ 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.46~0.76※3 トリウム濃度 : 26万~30万ベクレル/リットル ※4 トリウム総量 : 2.2兆ベクレル	11~12月
点検停止 (測定・確認用設備 C群タンクの本格点検含む)			
25-7-18	G4北エリアA/B群 (測定・確認用設備 B群に移送) H2エリアJ群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約3,700m ³ : 約4,100m ³ 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.58~0.78※3 トリウム濃度 : 26万~27万ベクレル/リットル ※4 トリウム総量 : 2.0兆ベクレル	3月

→ 2025年度放出トリウム総量 : 約 **15兆**ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量 (実績値) の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 ALPS処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種 (Cs-134, Cs-137, Sr-90, I-129, Co-60, Sb-125, Ru-106) の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値 (0.11) および
その他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※4 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。